

第7回教育支援コーディネーター・フォーラム(報告⑥)

第2部 テーマ別分科会 (13時30分から16時30分まで)

- 分科会Ⅱ「子供たちの学習や様々な体験・交流活動を豊かにしていくために～放課後子供教室の活動の可能性を探る～」
- 【都民ホール】

分科会Ⅱは108名が参加し、基調講演、事例発表をもとに、グループディスカッションを通じて、放課後等の時間を活用し、子供たちの学習や様々な体験・交流活動をより豊かにしていくために、放課後子供教室はどのような可能性があるのかを話し合いました。

基調講演「放課後における子供たちの学習や様々な体験・交流活動を支えるために」

【講師】相川 良子さん(特定非営利活動法人ピアサポートネットしづや理事長)

相川さんは、14～5年前から渋谷区で「渋谷ファンイン」という子供の居場所づくりに関わってきましたが、当時から「引きこもり」等の青少年の孤立や個別化を懸念して、現在、若者の自立支援をする活動を行っています。

その経験から、地域の中で子供と家庭が不安を抱えているなか、コーディネーターが子供・家庭を励ましていくこと、コーディネーター自身が多様な関係を広げていくことについて話をしました。



パネルディスカッション

「子供たちの多様な学習・体験・交流活動の展開～放課後子供教室の活動の可能性を探る～」

1 地域の人々の参画による放課後子供教室の活動

【事例発表者】下村 咲子さん(こだいら放課後子ども教室四小地区実行委員会コーディネーター)



下村さんは、地域の人が様々な活動プログラムに参画している「こだいら放課後子ども教室四小地区」の活動を紹介しました。学校の20分休みや土曜日に昔遊び等を通じて子供と地域の人とがふれあっている「にじいろひろば」の活動では、子供の居場所とともに団塊の世代の居場所にもなっていることや「ミニバスケット」のコーチを務める大学生が、「子供たちの成長や未来にかかわるから楽しい」と話していたことを紹介しました。

その後、参加者で5～6人のグループに分かれて、相川さん、下村さんのお話から気づいた事、参考になった事を話し合い、模造紙にまとめました。



2 NPO・団体・企業の力を活用した放課後子供教室の活動

【事例発表者】

鈴木 智治さん(アイエックス・ナレッジ株式会社経営管理本部広報・IR 部マネージャー)

百田 真治さん(特定非営利活動法人プラス・アーツ事務局)

橋本 典子さん(安全インストラクター)



地域教育推進ネットワーク東京都協議会に加入している NPO・団体・企業から放課後子供教室で実施した活動プログラムを紹介していただきました。

アイエックス・ナレッジ株式会社「ロボット&プログラム体験教室」では、「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」に相談したことから土曜日を活用した「ロボット製作体験教室」を実施し、次に「放課後子ども教室」に広がっていた事例を紹介していただきました。

特定非営利活動法人プラス・アーツ「防災体験プログラム」では、阪神・淡路大震災の経験から開発された「防災体験プログラム」を放課後子供教室の活動で取り組んだ事例を紹介していただきました。

うさぎママのパトロール教室「子供たちへの安全教室」では、子供対象のプログラムでも、大人も一緒に活動して、大人と子供とのコミュニケーションを通じて安全対策を図っている事例を紹介していただきました。

〔第二部 分科会Ⅱの感想〕

企業

・プログラムの充実と同時に、多くのコーディネーターの方々は日々の放課後支援に課題を感じられていることを実感しました。

コーディネーター

・問題提起や事例紹介という全体の学びの他に、グループディスカッションをしたことで、それぞれの自治体の取組や悩みを知ることができた。今後の参考にさせていただきます。

・NPO、企業の協力も取り入れたいと思った。今一度、地域への協力の投げかけをしたいと思った。

・地域のネットワーク作りの大切さを感じました。